

2021年度 京都芸術大学 科目選択型選抜Ⅱ期
学科試験 国語・英語 (90分 各100点 合計200点)
< 1月28日(木) 実施 >

<注意事項>

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。また、解答用紙にも手を触れないこと。
2. 試験時間は11:30~13:00(90分)です。また、試験終了までは退室できません。
3. 使用可能用具は筆記用具(鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り)のみです。筆記用具以外の筆箱・ペンケースなど私物はすべてかばんの中にしまってください。
携帯電話を時計代わりに使用することは認められません。
4. 問題冊子は20ページです(表紙を除く)。解答用紙はマークシート用紙2枚です。国語と英語で解答用紙が別になります。間違わないように解答してください。試験開始後、問題冊子および解答用紙の印刷不鮮明な箇所、ページの落丁・乱丁、汚れなどに気づいたら手を挙げて監督者に知らせること。
5. 試験開始後、まず解答用紙の所定欄に解答用紙記入番号、氏名・フリガナを記入すること。
6. 解答はすべて解答用紙に記入すること。解答はすべて鉛筆またはシャープペンシルで記入すること(それ以外の筆記用具の場合、解答が無効になります)。また、解答は全て選択式となっているので、解答を一つだけ選び、解答用紙の記入例を参考に正しく記入すること(誤った方法で記入をしたり、二つ以上マークした場合、解答が無効になります)。
7. 質問がある場合は、大きく手を挙げて監督者に知らせること。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってもかまいません。解答用紙を提出せずに持ち帰った場合、試験放棄とみなされます。

1、次の文章は、中村桃子『女ことばと日本語』という著書の序章の冒頭部です。この文章を読み、後の問いに答えなさい。

「日本語には、なぜ女ことばがあるのですか？」

「それは、女の人が女ことばを話してきたからでしょう。」

「では、女ことばとは、何ですか？」

「だから、女の人が話している言葉づかいですよ。」

日本では、女性は男性と違う言葉づかいをしてきたので、その言葉づかいが女ことばになったと考えられています。そして、女性が男性と違う言葉づかいをしてきたのは、女らしさが言葉づかいに表れるからだと言われます。つまり、長い間女性たちが女らしい言葉を使い続けたので、それが自然に女ことばになったと考えられているのです。

この考え方に従えば、日本語に女ことばがあるのは、女性が男性と違う言葉づかいをしてきたからだと言われ、それ以上の説明は必要なくなりません。

けれども最近の研究は、女ことばがそれほど単純にできあがったのではないことを示しています。以下に、右に述べたような理解の問題点を大きく四つに分けて見ていきます。

一つめの問題は、女性の言葉づかいはいつも同じではなく、時と場合に依りてさまざまに変化するという事実です。女性が実際に言葉を使っている様子を見ると、会話の場面、聞き手との関係、会話の目的などに依りてさまざまに言葉を使い分けています。これは考えてみれば当たり前のことで、女性に限らず誰でも、時と場合によって違う言葉づかいをするし、年齢が上がれば話し方も変わります。いつも同じ話し方をするほうが難しいでしょう。

もし、私たちの言葉づかいがこれほど X に変化するものならば、その多様な女性の言葉づかいが自然に「女ことば」というたったひとつのカテゴリーにまとまったとは考えられません。

このように述べると、「もちろん、今の女性は女らしい言葉など使わないが、昔の女性は今よりずっと女らしい言葉づかいをしていて、その昔の女性たちの言葉づかいが今の女ことばになったのです」と言う人がいます。本当でしょうか？

昔の女性たちが実際にどのような言葉づかいをしていたかはテープレコーダーがなかったのを知ることができません。けれども、いつの時代にも、その時代に「女らしい」と考えられていた言葉づかいをしない女性がいたことは、いくつかの資料からも明らかです。

たとえば、『源氏物語』の帚木はきぎの巻には、若い男たちが、漢語を多く使う学者の娘の言葉づかいについて「どこにそんな女がいるものか。そんなくらいなら、神妙に鬼の女房とさしむかいでいた方がいいだろう」と恐ろしがる場面があります（今泉忠義『源氏物語（一）全現代語訳 新装版』二〇〇〇年）。上流女性が漢語を使うことは女らしくないと考えられていたにもかかわらず、漢語を使う女がいたのでしょう。

一四世紀初頭に書かれた宮仕えの女性のための教訓書『めのとのさうし』には、私のお気に入り、次のような教訓があります。(塙保己一編『群書類従 第二十七輯 雑部』)

おもふさまにえみひろげ。のどのあな見え。したのひろき。口わきよりあはふくだりても
のいへば。いかにうつくしき口つきも。あしくなり候。

(思い切り笑い広げて、のどの穴を見せ、舌を広げ、口の脇から泡を吹いてしゃべれば、
どんなに形の良い口も醜くなる。)

私は、この教訓を図書館で見つけたときに、おもわず声を出して笑ってしまいました。教訓
にはあまりにも具体的だったからです。この教訓は、
書かれなければならないのではないのでしょうか。

B

国語学者の小林千草は「女性の意識と女性語の形成」という論文で、室町時代の狂言「れん
じゃく」に登場する濁り酒商人の女が、自分を紹介する部分では、「おりやらしです」という
最高に丁寧で品の良い女性のことばを使っていたのに、市で場所取りをしていた自分の前に座
り込んだ男に対しては、「やい、ここのけ。」と怒鳴りつけるという落差に注目し
ています(『女と男の時空 日本女性史再考Ⅲ』一九九六年)。室町の女も、必要なときには乱
暴な言葉づかいをしたのです。

つまり、一口に女性といってもその立場はいろいろで、たとえ「昔」であっても、彼女たち
が一樣に同じような言葉づかいをしていたとは考えにくいのです。むしろ、身分の違いが明確
であった「昔」であるからこそ、その言葉づかいは大きく異なっていたのではないでしょ
うか。

では、女性の多様な言葉づかいは、どのようにして「女ことば」というたったひとつのカテ
ゴリーを形成していったのでしょうか。これが、本書が明らかにしようとする第一の問いで
す。

二つめの問題は、女ことばには「女はこのように話すべきだ」という規範(ルール)として
の働きがあるという問題です。たとえば、女の子が乱暴な言葉づかいをすると、「女の子なん
だから、もっと丁寧に話さない」と注意されることがあります。注意したり教えなければな
らないということは、女ことばが、「女性なら自然に話す言葉」のではなく、「女はこのよう
に話すべきだ」という規範だということです。

女ことばに規範としての働きがあることは、毎年たくさんの女性のための話し方のマナー本
が出ていくことから分かります。ざっとネットで検索しただけでも、以下のような題名が現
れました。

『ぜったい幸せになれる話し方の秘密——あなたを変える「言葉のプレゼント」』

『女性の美しい話し方と会話術——好感を持たれる言葉のマナー』

『聡明な女性の話し方』

『「品格ある大人」になるための愛される日本語』

『エレガントなマナーと話し方——魅力的な女性になる77のレッスン』
『美人の話し方——そのひとことであなただは愛される』

これらのマナー本は、話し方を変えることで女性は「変わる、聡明になる、魅力的になる、幸せになる、美人になる、愛される」とうたっています。もちろん、男性の話し方についてもマナー本がありますが、仕事をスムーズに進めるための内容が多く、話し方によって男らしくなったり、幸せになったり、愛されることは想定していません。

では、女らしい話し方は、なぜ、どのようにして女性の話し方のルールになったのでしょうか。なぜ、女らしさは話し方に表れると考えられているのでしょうか。これが、本書が明らかにしようとする第二の問いです。

三つめの問題は、女ことばには、メディアから知識として学ぶ側面があるという点です。日本に住んでいる人のほとんどは、その人の住む地域の言葉、地域語を話しています。一方、女ことばは標準語です。だとしたら、地域語を話す人は、身近にいる女性の口からは標準語である女ことばを日常的に聞くことがないということになります。 C、私たちは女ことばがどのようなものであるかを知っています。なぜでしょうか。

それは、私たちが女ことばを、メディアから学んでいるからです。身近な女性の口からではなく、むしろ、テレビや映画の登場人物の会話から学んでいるのです。

実は、メディアから知識として学ぶ言葉づかいは、女ことばに限ったことではありません。日本語には女ことばと同じように、特定の集団や人物像と結びついているさまざまな言葉づかいがあり、その多くはメディアから学ばれることが指摘されています。国語学者の金水敏は『ヴァーチャル日本語』（二〇〇三）で、そのような言葉づかいを「役割語」と名づけ、紋切型の人物が登場する絵本やマンガなどのメディアに役割語が多く使われていることを示しています。

女ことばも、自分や身近な女性が日常的に使うというよりも、メディアの登場人物——美人女優や、デキるキャスターや、優雅な奥様や、愛されるアシスタント、可憐な妹など——が使っているのを聞いて学んだと考えられます。だとしたら、私たちは女ことばを知識として学んでいることになりました。つまり、女ことばには、「このような話し方が女ことばだ」という知識の側面があるのです。

知識としての女ことばの側面がもつともよく表れているのが、翻訳の言葉づかいです。なぜなら、翻訳には日本人女性が使わないような典型的な女ことばが使われることが多いからです。

たとえば、J・K・ローリングのハリー・ポッター・シリーズで活躍する女の子に、ハーマイオニー・グレンジャーがいます。第一巻の『ハリー・ポッターと賢者の石』（松岡佑子訳）でハーマイオニーがはじめて登場するシーンは、次のように翻訳されています。

「まあ、あんまりうまくいかなかったわね。私も練習のつもりで簡単な呪文を試してみたことがあるけど、みんなうまくいったわ。私の家族に魔法族は誰もいないの。」

「私」「わね」「わ」「の」など、かなり女らしく翻訳されています。しかも、このとき(第一巻)の年齢は一一歳という設定です。日本ならば小学校の五年生です。今どきの日本の小学校五年生で、こんな話し方をしている女の子などいるでしょうか。

さらに、この傾向は、一九五七年にホウヤクされた『風と共に去りぬ』のスカレット・オハラから続いています。翻訳のスカレットも、「いらぬわ。ほしくないのよ。」(大久保康雄・竹内道之助訳『新版世界文学全集25・26』)と典型的な女ことを話しています。不思議なことに、現在、最も典型的な女ことを話しているのは、日本人女性ではなく、翻訳の中の非日本人女性なのです。

なぜ、このようなことが起こるのでしょうか。ひとつの理由は、「女性は女ことを話している」という思い込みがあるために、翻訳者が翻訳するときに、

D

からです。翻訳家の大島かおりは、次のように述べています。

同じ言葉であっても、男が言っているときと女が言っているときでは、訳し分けることがある。いわゆる女ことばに縛られているつもりはなくとも、身にしみついた「女らしさ」の約束ごとに無意識に引きずられて、自分の言葉の選び方を自分で規制している。

「女が女を訳すとき」『翻訳の世界』一九九〇年九月号

日本語を話すことのない外国の人々が使う女ことばほど、女ことばが知識であることを如実に表している例はありません。

私たちが女ことばを知識としてメディアから学んでいるのだとしたら、女性たちが使ってきた言葉がそのまま女ことばになったという考え方は、あてはまらないこととなります。なぜならば、メディアの言葉は作家が創作した「せりふ」だからです。

では、メディアの作り手は、なぜ女性と男性の登場人物に異なる話し方をさせて、「女ことば」の知識を発信してきたのでしょうか。これが、本書が明らかにしようとする第三の問いとなります。

(以下略。途中省略した部分がある。)

(1) 空欄Xに入れるのに最も適切な語句を選びなさい。

- ① 森羅万象
- ② 一騎当千
- ③ 言語道断
- ④ 千差万別

- (2) 傍線部Y「紋切型」の意味として最も適切なものを選びなさい。
- ① 切り抜いたように明確で鮮明なこと
 - ② 人物の集団が多様多様であること
 - ③ きまりきった型で、新味に乏しいこと
 - ④ 言動がかたくなるしく、不愛想であること
- (3) 次の①～④のカタカナを漢字で書きあらわしたとき、傍線部Z「ホウヤク」の「ホウ」と同じ漢字が用いられているものを選びなさい。
- ① ホウジン救助のための特別機が離陸した。
 - ② ホウチ国家の根幹をゆるがす事態である。
 - ③ その地域では家畜のホウボクが行われている。
 - ④ 因果オウホウは仏教の考え方である。
- (4) 傍線部A「右に述べたような理解」の内容として最も適切なものを選びなさい。
- ① 女性は「女らしさ」があるので、おのずとそれが言葉づかいに表れたということ。
 - ② 「女ことば」は日本では一般的なものとして考えられているが、日本以外には存在しないということ。
 - ③ 女性と男性は言葉づかいに差がないので、「女ことば」という言い方は不適切なこと。
 - ④ 女性が男性と違う言葉づかいをしてきたので、「女ことば」が生まれたということ。
- (5) 空欄Bに入れるのに最も適切な語句を選びなさい。
- ① 大口を開けてしゃべりまくる女たちをほめ、応援するために
 - ② 大口を開けてしゃべりまくる女たちなど実際にはいなかったからこそ
 - ③ 実際に大口を開けて笑いしゃべりまくる女たちがいたからこそ
 - ④ 宮仕えの女性のための教訓にしてはあまりに写実的で具体的だからこそ
- (6) 空欄Cに入れるのに最も適切な語句を選びなさい。
- ① それにもかかわらず
 - ② そうであるからこそ
 - ③ まさにそのおかげで
 - ④ ましてなおいっそう

(7) 空欄Dに入れるのに最も適切な語句を選びなさい。

- ① 日本語らしくしようとして女ことばを強調する
- ② 自分が持っている女ことばの知識を使ってしまう
- ③ 原文の雰囲気なるべく日本語に移そうとする
- ④ 女性のせりふはなるべく女性らしく訳そうとする

(8) 本文の内容に合致しないものを一つ選びなさい。

- ① 人間は誰でも会話の場面、聞き手との関係、会話の目的などに応じて言葉を使い分けており、どんな場面でも一貫した話し方をするのは不自然である。
- ② 『源氏物語』の書かれた時代にも、「女らしい」と考えられている言葉つかいから逸脱した話し方をする女性たちが存在した。
- ③ 話し方のマナー本を調査すると、女性向きのものも男性向きのものも「聡明になる、魅力的になる、幸せになる、愛される」ことを目的としていることが分かる。
- ④ 「女ことば」は身近な女性から日常的に習得するものではなく、さまざまなメディアを通して学ぶ「役割語」としての知識にはかならない。

2、次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

学校と怪談のシンワ性^Xの高さについては、すでにいくつかの指摘がある。例えば常光徹は、小学校に上がってくる子供たちにとって、そこは得体の知れない、手強い空間であるがゆえに想像力を刺激する場所であり、だからこそ未知なる空間の魅力を持つと言う。また岡崎弘明は、もともと子供たちは未知なるものへの恐怖と好奇心を強く持つっており、それを実現させてくれる場所として学校を見ているとする。

彼らの指摘は、子供にとって学校がいかに特殊で魅力的な空間なのか、あらためて考えさせられる。たしかに学校は、子供たちが想像力を膨らませて生み出した物語を保存し、それらを伝えていくうえで、きわめて有効な構造と機能を備えている。学校ほど光と闇、明と暗がはっきりしている空間は珍しい。昼間は子供たちの喧騒がうるさく感じるぐらいの祝祭的な空間だが、夜になると一転して静まりかえり、それが逆に恐怖感を刺激する。校舎内の教室の配置という点でも、明と暗のタイショウ性は際立っている。いわゆるホームルームは、陽の当たる南側に配置される。それに対して、普段あまり使われない理科室や音楽室といった特別教室、トイレや階段は、北側に配置されることが多い。ここにも、明確なコントラストが生じている。明るいホームルーム^Aに対して、どこか薄暗いトイレや理科室や音楽室。

また時間という点でも、学校は特異な場所と言える。通学する子供の視点に立てば、彼らは毎年学年が上がっていくという意味で、直線的な時間のなかにいる。だが、学校側の視点に立てば、毎年ほぼ同じ行事を挙行しているに過ぎない。四月は入学式、そして夏休み、運動会や学芸会、そのうちに冬休みがきて、やがて卒業式。四月になるとまた入学式……。実は学校は、同じふるまいを延々と繰り返している時空間なのかもしれない。

子供たちは学校で、直線的な時間を経由しつつ卒業していく。しかし学校自体は、ずっと循環的な時間のなかで同じ行事を繰り返している。その意味では、学校の時間は閉じている。そのため、学校で起きた事件の記憶は保存されやすい。ある年に林間学校で何か起きたとすれば、それは明るる年の林間学校で、必ず誰かが思い出す。同じ行事があるたびに、そのときの出来事が蘇る^{よみがえ}。同じ小学校に兄弟姉妹が在籍していれば、事件は学年を越えて伝わっていく。そんな時間のなかに、学校はある。

また、学校は地域の特異な記憶が回収される場所でもある。例えば「この学校は、昔墓地だった」という怪談は、一概にフィクションとも言えない。各自治体が学校を作るよう明治政府から命令されても、すぐに学校が設置できるような余剰の土地など、存在しなかったはずだ。子供たちが歩いて通える距離で、しかもまとまった使える土地となると、無縁墓地などの忌地しかない。したがって、明治時代に創立した古い学校ならば、もともと墓地だったとしても、何ら不思議ではないということになる。現代にあっても、まとまった学校用地の確保は、容易ではない。

さらに学校は、地域の見捨てられた神仏が集う場所でもあった。学校の周りで道路の拡張工事や土地の区画整理が行われたさい、捨ててに捨てられない路上の地蔵や、その土地に古くか

ら祀^{まつ}られていた祠^{ほくら}が、学校に持ち込まれるケースがある。これらの地蔵や祠は、地域共同体が昔から維持してきた記憶、歴史の象徴、モニュメントである。地域社会の未来の担い手が集う学校に、このような「土地の記憶」が置かれることで、地域全体の心性が [Z] とは考えられないか。

そもそも怪談は、過去の歴史を次の世代へ伝えていくツールとして、非常に優れている。こうした怪談の特徴が最もよく生かされる場のひとつが、現代にあっては学校なのである。

ここまで「学校の怪談」について、その歴史的な経緯や学校という空間の特殊性について考えてきたが、そもそも「学校の怪談」という名称が一般化したのは、それほど昔の話ではない。かつて、学校に伝わる怖い話は「学校の七不思議」「学校の怖い話」などと呼ばれていた。それが「学校の怪談」という名称に統一されたのは、一九九〇年代である。常光徹編『学校の怪談』（全9巻、講談社KK文庫）が九〇年に、日本民話の会学校の怪談編集委員会編『学校の怪談』（全19巻、ポプラ社）が九一年に刊行を開始したことが契機となった。児童書扱いだったため当時はそれほど話題にならなかったが、全国の小学校の図書館や学級文庫に配架され、前者はシリーズ累計で二七〇万部、後者は同じく六〇〇万部を売り上げ、大ベストセラーとなった。

これらのシリーズの成功は、多くの類似した出版企画を呼び込むと同時に、漫画やテレビドラマ、アニメ、ビデオ、映画、ゲームなどでジャンル [a] 的に取り上げられ、「学校の怪談」は広がっていった。やがてこれらのメディアミックスは「大人」をもターゲットにしていく。考えてみれば、誰にだって子供時代はある。小学校にも中学校にも通っていた。ならば「学校の怪談」は、小中学校時代のロマンティック、かつノスタルジックな記憶を喚起させる物語として、大人にとっても十分に魅力的である。

メディアミックスによる多彩なコンテンツの提示によって、大量の「学校の怪談」が世に浸透した。そのなかには、気になる点もある。例えば、これらのコンテンツで紹介された話が、個々の学校や地域で傳承されてきた物語の事実認定に使用されたこと。「この学校で伝わっている話は、本に載ってるぐらい有名なんだ」という認知のあり方である。その結果「夜中になると音楽室でピアノが鳴る」「校庭にある二宮金次郎の石像が、夜中になると校庭をランニングしている」「夜中になると理科室で骸骨模型が踊っている」などの話は、あまりにも陳腐な「学校の怪談」になってしまった。多様なメディアで、繰り返し紹介されたからだ。

このように人口に膾炙^{かいしや}した話に対して、当然その地域固有の話、その学校だけに伝わっている話がある。その場合、少し屈折した現象が起きたかもしれない。この話は私たちが読んでいる学校の怪談本には全く出てこないから、私たちの学校に伝わっている話は作り話かもしれない、という懸念が生じる。

おそらく、事態は逆のはずである。メディアで繰り返し紹介される話は、どこにでもある話になってしまふ。しかし、その学校以外に類例がない話は、その土地と強く結びついている可能性が高い。その土地独自の話だからこそ、本来はそちらを大事にする必要があるのに、メ

ディアの提供する情報が強すぎるために、独自性の高い話が虚構に見えてしまう状況が起きていたかもしれない。または、実際にその学校に伝わってきた話があまりにも類型的になってしまったために、逆に虚構とみなされてしまうケースも考えられる。

一方、語り手による事実性の付与という問題もある。その一例として、横浜国立大学附属鎌倉小学校の生徒が昭和二二（一九四七）年頃に書いた作文を紹介しておこう。「今日おひる休み、すぐりさんや大石さんや陽子ちゃんや西はらさんやのり子ちゃんなんかと、山口先生ががんにじつに七つのふしぎというお話の一つの本校のほうのごふじょうの左からさんばんめのとをあけると赤い手があるというので、まいにちみにいくのに出ていません」。

微笑ましい話ではあるものの、山口先生はなかなか罪深い。先生から聞いた話を確かめるために、彼女は毎日友達とトイレに通うはめになったのだから。では、なぜ彼女はここまでトイレに執着するのか。語り手が先生だったからだ。ここには、先生という規範的な立場から語られたことで、定番の「トイレの怪談」が「事実」とみなされ流布するという、怪談の力学が働いている。一般的に言って、学校の怪談に先生が関与した場合、その信憑性は格段に高まる。生徒から見た先生は「学校」の一部、つまり「学校」それ自体だからである。先生がその学校の怪談を語ることは、学校が自らの闇の部分について告白しているに等しいのだ。

ともあれ「学校の怪談」は、多様なメディアで (b) 的に作品化されることで、ひとつのジャンルとして認知されるに至った。その結果、それまでの「学校の七不思議」「学校の不思議な話」といった名称は淘汰され、「学校の怪談」という名称で、ほぼ統一された。

一九九〇年代は怪異をめぐる多様な動きが表面化した時代だった。こうした動きと「学校の怪談」が連動した部分も大きかったと思われる。しかしその後「学校の怪談」は変容を迫られ、やがて衰退していった。その理由は、いくつか考えられる。

ひとつは、先ほど挙げたように、大量の「学校の怪談」情報が流布した結果、特定の話が定番化し、陳腐化したためである。情報の氾濫は、すぐさま物語の虚構化を促す。作り話は、怖くない。同じく物語の定番化も、子供たちから恐怖の感覚を消失させる。何事も、慣れてしまえば怖くなくなるものだ。

ふたつめとして、地元の怪談の伝承を支えてきた地域共同体が、この頃から機能不全に陥りはじめたこと。かつては夏休みになると、地域の町内会や青年団が肝試しきまどぶなどを行った。このさいに、大人たちがその地域に伝わる怖い話を、子供たちに披露した。肝試しは、その怪談の舞台になった場所で開催されたりした。こうして子供たちのなかには、郷土で伝承されてきた記憶が植え付けられていった。しかし今、このような催しはどれぐらい行われているのだろうか。

常光徹は、子供たちの生活の場から恐怖や不思議を実感できる空間と物語が失われつつある結果、闇の世界や異界への憧れや欲求を怪談の世界に求めているのではないかと指摘している。子供たちのこうした要求に応じてきた地域のイベントは、徐々に姿を消しつつある。

そもそも学校の怪談のリアリティを保証してきたフレームのひとつは、地域共同体だった。

河童やザシキワラシの話は、土地の伝承ゆえに説得力を有していた。しかし、地域の記憶を喪失した子供たちの語る河童の話は、固有性を失って (c) 化された物語に過ぎなくなる。それは、帰る港を無くして海上を浮遊する難破船のようなものだ。

三つめの理由は、この点に関わる。九〇年代から二〇〇〇年代にかけて、日本の一般家庭にパソコンが普及した。インターネットの整備によって私たちの情報環境は劇的に変わり、今も変わりつつある。そのなかで、学校の怪談もまた (d) 化された情報としてパソコンのなかに取り込まれることで、実体をともしなわれない単なるウワサ、都市伝説のようなものに変容した。

そして四つめは、「学校安全神話」の崩壊である。どんな怖い目に遭おうとも、結局は学校のおかげから安全だという確信があったからこそ、私たちは学校で、気持ちよく怪談の世界に馴染むことができた。学校空間が気の抜けない、常に緊張を強いられる場所ならば、素直に怪談を楽しめない。さらに学校が、場合によっては生きるか死ぬかを迫られるサバイバル空間になってしまったら、もう怪談どころではない。そしてその懸念は、残念ながら現実になってしまった。

例えば、かつて学校が大好きで、いつも学校へ通うのを楽しみにしていた子が病院で亡くなった後、夜になると一人教室で授業を受けている、といった話がある。おそらくこの話は、事実に基づいていただろう。しかし話のなかでは、その子の名前など、人物を特定する情報は消されている。生々しさを平準化し、その子にどこか同情を抱いてしまう話として再編されることで、もの悲しい「学校の怪談」として受容されてきたはずだ。しかし近年起きた一連の事件は、あまりにも生々しすぎるため、すぐさま怪談になることはない。

(一柳廣孝『怪異の表象空間』より。途中、省略した箇所がある。)

(1) 次の①～④のカタカナを漢字で書きあらわしたとき、傍線部X「シンワ」の「シン」と同じ漢字が用いられているものを選びなさい。

- ① シンシュツ鬼没の怪盗。
- ② シンシュの気運に富んだ人々。
- ③ 彼は小学校からのシンユウです。
- ④ 国際交流のシンコウを図る。

(2) 次の①～④のカタカナを漢字で書きあらわしたとき、傍線部Y「タイシヨウ」の「シヨウ」と同じ漢字が用いられているものを選びなさい。

- ① 仮説をケンシヨウする実験を行う。
- ② シヨウサンに値する行為だ。
- ③ シヨウケイ文字を解読する。
- ④ 多くの辞書をサンシヨウする。

(3) 空欄Zに入れるのに最も適切な語句を選びなさい。

- ① 崩落する
- ② 安定する
- ③ 動揺する
- ④ 進展する

(4) 傍線部A「時間という点でも、学校は特異な場所と言える」とあるが、学校のもつ時間性として、ふさわしくないものをひとつ選びなさい。

- ① 同じふるまいを繰り返している時間
- ② 二度と同じことが起こらずに進行していく時間
- ③ 事件の記憶が保存されやすい閉じられた時間
- ④ 同じ行事を繰り返す、循環的な時間

(5) 空欄(a)～(d)には「断片」「横断」のどちらかが入る。「断片」をア、「横断」をイとしたとき、空欄(a)～(d)に入る適切な組み合わせを選びなさい。

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| ④ | ③ | ② | ① |
| (a) イ | (a) イ | (a) ア | (a) ア |
| (b) イ | (b) ア | (b) ア | (b) イ |
| (c) ア | (c) イ | (c) イ | (c) ア |
| (d) ア | (d) ア | (d) イ | (d) イ |

(6) 傍線部B「事態は逆の**はずである**」とあるが、この内容の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ① 本来、地域固有の話のほうが大事にされるべきであり、メディアで紹介される話のほうが作り話に近いはずである。
- ② 多様なメディアで紹介される話こそ人気があり、実際の学校と結びついた話は怖がられるだけの**はずである**。
- ③ 大量の「学校の怪談」がメディアによって浸透すると、刺激を受けて多様な怪談が創出される**はずである**。
- ④ メディアで消費される話は、もともとそれぞれの土地と結びついた話である**はずである**。

(7) 傍線部C「**学校の怪談**」は変容を迫られ、やがて衰退していった」とあるが、傍線部の背景の説明として、最も適切でないものを選びなさい。

- ① 地元の怪談の伝承を支えてきた地域共同体が機能不全に陥った。
- ② 学校の怪談の中の特定の話が定番化し、陳腐化した。
- ③ 学校の怪談は単なるウワサ、都市伝説のようなものになった。
- ④ 子供たちは闇の世界や異界への憧れや欲求を怪談の世界に求めた。

(8) 本文の内容に合致しないものを一つ選びなさい。

- ① 「学校の怪談」が享受されるためには、学校という場所が安全だという確信が前提として必要である。
- ② メディアミックスによって提示されたコンテンツとしての怪談は、実際に伝承された物語に影響を与えた。
- ③ 地域共同体が機能不全になると物語を伝承する機能が弱体化し、「学校の怪談」の性格も変化していった。
- ④ 学校は常に緊張を強いられ、生死の判断を迫られる場所であるからこそ、子供たちは怪談の世界に馴染むことができる。

3、次の各文の傍線部の読み方として適切なものを選びなさい。

- (1) 不意の悲報を聞いて号泣した。
① ごうるい ② ごうなき ③ ごうきゆう ④ ごうけつ
- (2) 辞書を手にしたら、まず凡例をよく読むべきだ。
① ほんれい ② はんれい ③ ばんれい ④ こうれい
- (3) 諸国を行脚する修行僧が主人公だ。
① ぎょうかく ② こうきやく ③ あんきやく ④ あんぎゃ
- (4) 恩師の逝去に哀悼の念を抑えられない。
① せいきよ ② いきよ ③ せきこ ④ せいこ
- (5) 放恣な生活を改めて堅実な職業についた。
① ほうぎ ② ほうしん ③ ほうじ ④ ほうし
- (6) 森は夜になると昼とは違った相貌を見せた。
① そうじ ② そうがん ③ そうぼう ④ そうびよう

4、次の各文のカタカナの部分の漢字に直したときの傍線部に該当する漢字を選びなさい。

- (1) 中立国に和平のチュウカイを依頼する。
① 介 ② 会 ③ 解 ④ 改
- (2) 誰かがたき火をしたケイセキがある。
① 籍 ② 石 ③ 責 ④ 跡
- (3) 十九世紀の西洋絵画に対するゾウケイが深い。
① 憩 ② 詣 ③ 敬 ④ 慶
- (4) 昨年の卒業式でソウジを述べた。
① 辞 ② 字 ③ 持 ④ 事
- (5) 冠婚ソウサイの儀礼は簡略化される傾向にある。
① 裁 ② 斎 ③ 祭 ④ 歳
- (6) 彼のシンソツな人柄に好感を持ちました。
① 信 ② 心 ③ 真 ④ 深

1. 次のエッセーを読んで、以下の問いの答えとして最も適当なものを選びなさい。

Some regional theater companies are attracting attention with their online performances or unique stage design, even as artistic and cultural activities have stalled due to the spread of the coronavirus.

How to engage in theatrical activities has been an issue since an infection cluster occurred among performers and audience members at a Tokyo theater. But regional theater companies are continuing to find unique forms of expression, while employing various measures to avoid the Three Cs of closed spaces, crowded places and close-contact settings.

One performance that was presented differently to how it would be in a theater was a musical livestreamed via videoconferencing platform Zoom in early July. Actors performed their parts in their homes and the audience watched on computers and other devices. The performance was created by Hotori Theatre, a group of performers and a composer in Ibaraki Prefecture.

Their first such production was “Utau Shibahama,” an arrangement of rakugo masterpiece “Shibahama,” which describes love between a husband and wife. Videos individually recorded by theater members were put together and set against a different background to create a “stage” on screen. Since it is difficult to start singing together at the same time, it is thought to be unusual to perform a musical remotely.

“Utau Shinigami,” their second production presented through this method, will be livestreamed from Friday night. “We just want people to enjoy what we have cultivated,” Mito-based actress Chiaki Mitsumori, 37, said.

In Ishinomaki, Miyagi Prefecture, a group of performers and others turned “no Three Cs” to their advantage and created a different kind of theater. They started to present free performances at Ishinomaki’s Kiwamariso gallery on June 14 in which the audience is limited to one person at a time and they watch through a “peephole.” A visitor in a half-tatami mat space peeks through a 4-centimeter hole to watch the play, which is staged in a 4½ tatami mat space. The spaces are separated by a wooden wall.

The production was soon flooded with reservations. Works from three to 10 minutes long depicting the daily lives of women in Ishinomaki after the Great East Japan Earthquake proved popular, and all 48 performances through the end of July sold out.

“I wonder if sharing the same air and enjoying a ‘sense of close contact’ are the essence of theater,” Ryuta Yaguchi, 37, an Ishinomaki Performing Arts Association representative who planned the play, said.

Local theater company member Yuko Mikuni, 69, who appeared on the first day of the performance, said that although she was nervous about the reaction of the audience since the

reaction was just with one eye, she was impressed with the way it was presented.

Itsuki Mizuno, 31, of Iwaizumi, Iwate Prefecture, and other volunteers did everything online, from practice to performance, without meeting in person. Although it is often difficult to prepare for a role and perform it with only what can be seen online and holding a practice only once or twice a week, Mizuno said: “Art lives in life. The means of expression should change with the new lifestyle associated with the coronavirus.”

[*Japan Times*, August 14, 2020]

- (1) Which statement is true about regional theater companies under the spread of the coronavirus?
- ① All theater companies have stopped their performances since the coronavirus first hit Japan.
 - ② All theater companies have actively carried out their performances under the spread of the coronavirus.
 - ③ Regional theater companies outside of Tokyo have closed their theaters since the coronavirus spread.
 - ④ Some regional theater companies have continued their performances in unique ways.
- (2) What are the Three C's?
- ① They are closed theaters, closed business and close-contact.
 - ② They are closed spaces, crowded places and close-contact.
 - ③ They are closed captions, cross-tech and cross borders.
 - ④ They are cloud storage, close-contact and closed spaces.
- (3) Which statement is not true about “Utau Shibahama”?
- ① It was a production created by Hotori Theatre in Ibaraki Prefecture.
 - ② It was a musical in which actors performed their parts in their houses and the audience watched on computers and other devices.
 - ③ It was an arrangement of a Broadway masterpiece in New York.
 - ④ Individually recorded videos by actors were put together and set against a different background to create a “stage” on screen.

- (4) How did a group of performers in Ishinomaki, Miyagi Prefecture perform their play in June?
- ① They presented their performance which individual audience members watched through a hole.
 - ② Only one actor performed the play in a limited space.
 - ③ They performed three to ten episodes about the daily lives of women in Ishinomaki.
 - ④ They performed 48 scenes of Ishinomaki on the stage.
- (5) What impressions did Ryuta Yaguchi have after he experienced the theater performance in Ishinomaki?
- ① He felt the livestreamed theater performances were really difficult for the audience to understand.
 - ② He felt sharing the same space and having close contact might not be necessarily important to enjoy theater performances.
 - ③ He felt the spread of the coronavirus completely destroyed the attraction of theater performances.
 - ④ He felt local people should be able to play some parts themselves at regional theaters.
- (6) How did Itsuki Mizuno of Iwaizumi describe art and expression in today's society?
- ① Art and expression should be shared in person among many people in the moment.
 - ② Art and expression must be kept in the traditional style and the same way.
 - ③ Art and expression should change in accordance with new lifestyles.
 - ④ Art and expression should always change with new technology and science.

3. 次の文の空所(1)、(2)を含む6個の空所にはA群の6個の語が入り、空所(3)、(4)を含む6個の空所にはB群の6個の語が入る。この時空所(1)~(4)に入る語を選びなさい。

(1) Streetwear _____ (1) _____ about more than just clothing. Over the last three decades it has become a global phenomenon, influenced by a DIY, no-holds-barred attitude _____ _____ (2) _____, music, art, dance and skateboarding.

A群

- | | | |
|----------|-----------|-------------|
| ① been | ② fashion | ③ expressed |
| ④ always | ⑤ through | ⑥ has |

(2) In countries like Ghana and Nigeria, whose youth populations have soared — 57% of Ghanians and over 60% of Nigerians _____ (3) _____ — fashion has also become a way _____ (4) _____ to speak their minds and be heard by their communities and the wider culture. Here are some of the most exciting streetwear brands active in West Africa today.

B群

- | | | |
|---------|----------|---------|
| ① under | ② people | ③ young |
| ④ for | ⑤ 25 | ⑥ are |

4. 次の問い(1)、(2)それぞれについて、各単語と最も意味の近い語句を選びなさい。また問い(3)、(4)それぞれについては、各単語と反対の意味を持つ単語を選びなさい。

(1) illness

- | | | | |
|------------|--------|------------|-----------|
| ① response | ② care | ③ darkness | ④ disease |
|------------|--------|------------|-----------|

(2) distinct

- | | | | |
|---------|------------|-----------|----------|
| ① urban | ② negative | ③ obvious | ④ urgent |
|---------|------------|-----------|----------|

(3) spiritual

- | | | | |
|------------|-----------|-------------|---------|
| ① physical | ② healthy | ③ effective | ④ solid |
|------------|-----------|-------------|---------|

(4) quality

- | | | | |
|-----------|------------|----------|---------|
| ① country | ② quantity | ③ supply | ④ guilt |
|-----------|------------|----------|---------|

6. 次の文の下線を引いた空所(1)~(4)に当てはまる語句として、最も適当なものを選びなさい。

The definition of beauty changes all the time. And (1), as society develops, it goes in cycles, like the changing of the four seasons. Not so long ago, Chinese people saw fashion as something that came from the West. Afraid to make “mistakes,” they looked to Europe and America to see which standards had been set. (2), fashion in China looked pale and blurry. (3) now, the Internet, technology and social media have rendered the world flat. Fashion can be accessed from anywhere, with styles from around the world cohabiting and influencing one another. Go to a high-end Beijing department store, (4), and you’ll see shoppers holding Hermes bags and wearing Chanel tops with Uggs -- all while holding a string of Buddhist prayer beads in their hands. Fusion is the future of fashion.

- | | | | |
|------------------------|----------------|---------------|----------------|
| (1) ① however | ② sometimes | ③ definitely | ④ first |
| (2) ① At best | ② In fact | ③ As a result | ④ At worst |
| (3) ① But | ② Therefore | ③ So | ④ Then |
| (4) ① frankly speaking | ② conveniently | ③ so that | ④ for instance |